

---

雨

ルト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨

### 【コード】

N7388L

### 【作者名】

ルト

### 【あらすじ】

その日は一日雨だった。掌編。

雨は陰鬱を誘う。

昼になっても薄暗い空は、大粒の涙でも霧雨でもない、ただ細い線のような雫をしとしと降りしきらせる。

面白くもなく珍しくもない、ただ陰鬱なだけの雨だった。

窓際に寄り添って暗い空を見上げ、湿気にべとついた窓に顔をしかめる。

ざああと地面を打つ雨音は遠く広がり、包み込むように押し寄せ

る。窓を打つぱちぱちという音が、窓で波紋のように一瞬だけの輪を広げ、航跡を引いて消えていく。

静かな声で語り掛け催眠術をかけるように、ふさぎこむ思考が立ち消える。

濡れそぼった思考の荒野に残るのは、ただ一握の暗く沈んだ気持ちだけ。

浮かない顔が湿った窓に映りこむ。顔を洗うようにしとしと雨が降り注ぎ、雨音の中を駆け抜けていく。

さああ、と真つ黒なアスファルトを打ち、にごった水溜りを跳ねる。

水溜りは静かに版図を広げ、地面を沈めていく。

水溜りに雨が溜まるように、暗い気分が嵩ましていく。

鬱々とした気分は水のように流れて、静かに思考が軋み出す。出口の見えない思考が回り、くるりくるりと音もなく、ゆっくりじっ

とり堂々巡り。

まるでにごった水槽のよう。

はたして答えが見えているのか、いないのか。

暗い空と静かな音色。

時間の中から切り離されて、雨ざらしの枯葉のように濡れ鼠のま  
ま小さな水面をしとしと漂う。

耳から消えた雨の音が、ふとしたときに蘇る。

雲に隠れた日は傾き、空の暗さはいや増している。

窓から顔を引き離し部屋を見回してみると、机の横で狐火のよう  
に小さな光が瞬いていた。

狐火ではなく、科学の光。最近換えた携帯の灯りだ。

手を伸ばして、耳に添える。

何ともなしに窓を見た。いつしか空の雲が切れ、にわかには外の明  
るさが増す。

携帯電話の瞬きは規則的に続いていく。

風が流れ、空は移ろう。空から流れない雲はない。

雨はその雫に汚れを取り込み、空を洗う。地面を叩く雨は流れ、  
打たれた地面は洗われた表層を見せる。

湿った葉は緑を深くし、濡れた土は草木を潤す。泉と川は嵩を増  
し、豊饒を遠く染み渡らせる。

陰鬱に洗われた心は鮮やかに澄み渡る。

雨上がりの草木の匂いが、薄い壁からかすかに薫る。

しめった空を急ぐように、羽を打って小鳥が踊る。

ぬれた電線から雫が伝い、水溜りに波紋が広がる。

空は晴れた。

(後書き)

ちよつと掌編書こつとしただけなのに、なんでこんな詩みたいになつたんだろつ……。。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7388/>

---

雨

2010年10月9日09時03分発行